臺灣日日新報

本日八頁

定價 本紙一ヶ月金五錢 一ヶ月前金拾錢 一ヶ月金四錢 一ヶ月金四錢 一ヶ月金四

毒を盛られて學良重態に陥る

暴虐將軍に果然災禍！

（東京一日午前七時五十分發電通至急報）北平よりの情報に依れば張學良は一同何者にか毒を盛られ重態に陥つたと（號外再錄）

（學良は得意な時代の張學良）

省略文だけでも 四百五十字詰五十頁

とても尨大なリットン報告書

【東京一日發電通】全世界の注目を浴びたリットン卿一行の滿洲調査委員がゼネバの聯盟に提出した支那問題報告書は原文にてフールスカップ二百五十頁に達し邦文にすれば九百頁と稱せられ原文にて二百頁と稱せられ邦文千二百頁と稱し尨大なものである、其他、附圖若干が添附されて居る、尚ほ右報告書は一日午後九時ゼネバ、東京、南京三ヶ所に於て一齊に發表された

新聞通信社に手交した、省略文だけでも四百五十字詰五十頁である

滿洲國承認で文句をいへば 日本は斷然抗爭する

今後の聯盟側の動向を注視

規約の制裁條項を 適用するは困難

問題のリ卿報告書の審議

【ゼネバ一日發電通】リットン聯盟調査團が滿洲國を正式承認せる事に關しては英佛獨伊の聯盟理事國は何れも遺憾なる旨を表明したが我が政府は有過態なりとする意見は聯盟に對し日本の滿洲國承認行爲に對する理事會又は總會としての全面的反對を表明するが如きことあるに於いては日本として斷然抗爭する外なしとして今後の聯盟と爲すことゝなつた

【ゼネバ一日發電通】リットン聯盟調査團が滿洲國を正式承認せる事に關しては英佛獨伊の聯盟理事國は何れも遺憾なる旨を表明したが我が政府は有過態なりとする意見は聯盟に對し日本の滿洲國承認行爲に對する理事會又は總會としての全面的反對を表明するが如きことあるに於いては日本として斷然抗爭する外なしとして今後の聯盟と爲すことゝなつた

【東京一日發電通】國際聯盟は日本の滿洲國承認に關し過般の聯盟會に於いては議長イーマンス氏より夫々日本がリットン卿報告書接受に先立つて滿洲國を承認せるは遺憾なる旨を表明したが我が政府は有過態なりとする意見は聯盟に於いては議長イーマンス氏より夫々日本がリットン卿報告書接受に先立つて滿洲國を正式承認せる事に關しては英佛獨伊の聯盟理事國は何れも遺憾なる旨を表明したが我が政府は有過態なりとする意見は聯盟に對し日本の滿洲國承認行爲に對する理事會又は總會としての全面的反對を表明するが如きことあるに於いては日本として斷然抗爭する外なしとして今後の聯盟と爲すことゝなつた

【ゼネバ一日發電通】リットン聯盟調査團が

農業ページ

四季を通じて出來る 本島の養蠶業

天惠と環境を利して將來は 蠶種製造に主力を注ぐべきか

竹東郡の畜産打合

新竹州竹東郡にては五日午前九時から竹東公會堂に庄長打合會を開き竹東五年計畫に關し種種打合を爲すと共に養豚を奬勵する爲め一般に養豚をよく解せしむる爲め一般に養豚が盛んであるが、本島は氣候溫暖の關係上四季を通じて野に山に桑葉を產し得るが故に養蠶は極めて好適の副業であり、殊に養蠶は比較的勞力を要せず婦女子の手にて容易に出來得るが故に養蠶に關して研究を遂げ以て本島に於ける養蠶業の發展を圖らんとの趣旨の下に養蠶組合を組織し、目下組合員は一百七十餘戶を算し、組合長は今井氏が本島人有志の推薦により就任し、組合員の中より數名の評議員を選出し、評議員會に於て種々協議の上決定する事になつて居る。

養蠶

養蠶は今を去ること一百七十餘年前、支那より渡來せしと云ふ說あり、又日本書紀に依れば人皇第二十代安閑天皇の御宇に於て既に養蠶の業ありしと云ふ事實より推して、我國に於ては遠き上古時代より養蠶の業ありしものと思はれるが、其の發達の經路は詳かならず、降つて德川時代に至りては養蠶業は全く農家の副業として行はれ、專業として營まるゝものは殆んどなかつたが、明治三十九年佐久間總督が宮崎縣より養蠶の業者を招聘して養蠶の奬勵を圖り、爾來養蠶業は漸次發展の徑路を辿るに至つた。

奬勵

明治四十五年より大正四年までの間を第一期とし、同期に至りては養蠶業は男爵

漫畫日日

第十二卷五百三十二號

滿洲國

滿洲「オレ〳〵、頭を作つたので、キク祝らされるともあるまい、オヤヤ、彼方ちやレンガで鼻を築きやがつた」

首を抜いてくれ

數日前夜の十一時半頃、某カフエーで、頻然と酔つてゐるところを、夜更のやうな細君が見付けて急れ込んだ、サア驚れ、何に驚ろくのかと、細君等の來が、細君に現像ばされた、その拍子に、突口にぶつかつてしまつた、お定まり通りの騒ぎ出來ぬので、遂に悪鳴を上げて、オレの首を抜いてくれツ

秋の夜はながし

秋女「あたしミスター白毛が生ア山だわ、キ、抜いてあげるわ、ヂットしてらつしやい、すあたし、罪ちやいけないわよ、ネーおきなさいよ起きてゐなさや世間體が悪いぢやないの

黎明の長屋風景

向ふ…ヤー朱來の…のベツピンがオカズヤから、オカズを貰らつて喰つてゐるヤーイ

變展藝家とバトロン

バトロン「君は一體、それや何にをしてゐるんぢやチヨボ出張「今年に、一つ二頭飼りの機會といふ出來ぬで、もつにせうとしてゐるんで、つまり機會に、悪定の跡をつけるのに、今苦心してる最中で……バトロン「ヘハーン」

牛に引かれて、カフエー詣りの圖

そま燒

お天氣ミーちやん

眞砂夫(校)

海軍軍事普及機關
建國民海軍組織等於一局
對於律敦報告態度
既定方針欲使貫徹
臺北州下聯吟大會
期日本月十六日
場所頭圍公學校
日月潭工事
急於進行
南投名間庄
區委員會
新義社過爐
文日盛登
價貶生意冷淡
嘉義市附近
無料觀覽者增與
夫在獄妻逃去
近情人病
踪跡始明
調查全島各地青果
年產額八百萬圓
朝鮮石拔器
來北實演
二期圓糯改善
南部短艇競漕
開于高雄
經評議會決定
燈謎兩誌
岡山裏作
地瓜競作會
決定開於路竹

人事
會事
新營
講演兩誌
牛吞講話

ラヂオ欄

今日の番組

十月三日(月)

午前の部

【六・三〇】朝の挨拶・ラヂオ體操
今日のお天氣のお知らせ・臺北測候所發表
【八・〇〇】實況中繼(臺北)
【九・一〇】家庭百科問答・△振替はなぜ便利なか△オゾンパイプは果して有效か

午後の部

【〇・〇〇】實況中繼(臺北)
【〇・〇一】報時・臺北觀測所發表
【〇・〇二】講演(臺北)
【一二・五九】正午の時報(臺北)
【一・〇〇】天氣豫報・臺北觀測所發表
【一・〇一】實況中繼(臺北)
【一・一〇】ラヂオ體操(臺北)
【一・二〇】子供の時間(臺北)・來客
【一・五〇】子供の時間(臺北)・水田敏夫
【二・〇〇】子供の時間(臺北)・宮島龍華
【二・三〇】講演(臺北)・家庭料理獻立(臺北)・伊地知たつ(臺北)
【三・〇〇】講演(臺北)・趣味講座(臺北)・宮島龍華
【三・三〇】講演(臺北)・家庭百科問答(臺北)
【四・〇〇】子供の時間(臺北)・水田敏夫
【四・三〇】實況中繼(臺北)・臺北第一中學校對臺北第二中學校野球戰
【五・〇〇】子供の時間(臺北)・來客
【五・二〇】子供の時間(臺北)・關屋
【五・二一】講演(臺北)・中山三郎
【五・三五】カレント・トピックス(臺北)・ハルド・パーマー
【六・〇〇】子供の時間(臺北)・宮島龍華
【六・〇〇】子供の時間・臺南のみ・NSハーモニカ合奏
一、歌劇「我若干王者なりせば」序曲(アメン作曲)二、獨奏(ピアノ)(ショパン作曲)三、獨奏(ヴァイオリン)(ヴィニアウスキー作曲)四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五、歌劇「椿姫」より(ヴェルディ作曲)六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)七、獨奏(ピアノ)(ショパン作曲)八、獨奏(ヴァイオリン)(ヴィニアウスキー作曲)九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)六十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)六十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)六十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)六十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)六十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)六十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)六十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)六十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)六十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)六十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)七十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)七十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)七十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)七十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)七十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)七十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)七十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)七十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)七十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)七十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)八十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)八十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)八十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)八十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)八十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)八十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)八十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)八十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)八十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)八十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)九十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)九十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)九十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)九十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)九十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)九十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)九十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)九十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)九十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)九十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百二十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百二十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百二十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百二十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百二十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百二十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百二十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百二十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百二十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百二十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百三十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百三十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百三十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百三十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百三十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百三十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百三十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百三十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百三十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百三十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百四十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百四十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百四十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百四十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百四十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百四十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百四十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百四十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百四十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百四十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百五十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百五十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百五十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百五十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百五十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百五十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百五十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百五十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百五十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百五十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百六十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百六十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百六十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百六十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百六十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百六十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百六十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百六十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百六十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百六十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百七十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百七十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百七十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百七十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百七十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百七十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百七十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百七十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百七十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百七十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百八十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百八十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百八十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百八十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百八十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百八十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百八十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百八十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百八十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百八十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百九十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百九十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百九十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百九十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百九十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百九十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百九十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)百九十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)百九十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)百九十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百二十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百二十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百二十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百二十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百二十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百二十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百二十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百二十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百二十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百二十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百三十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百三十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百三十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百三十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百三十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百三十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百三十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百三十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百三十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百三十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百四十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百四十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百四十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百四十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百四十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百四十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百四十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百四十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百四十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百四十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百五十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百五十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百五十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百五十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百五十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百五十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百五十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百五十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百五十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百五十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百六十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百六十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百六十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百六十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百六十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百六十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百六十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百六十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百六十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百六十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百七十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百七十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百七十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百七十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百七十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百七十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百七十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百七十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百七十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百七十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百八十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百八十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百八十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百八十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百八十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百八十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百八十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百八十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百八十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百八十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百九十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百九十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百九十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百九十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百九十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百九十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百九十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)二百九十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)二百九十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)二百九十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百二十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百二十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百二十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百二十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百二十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百二十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百二十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百二十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百二十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百二十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百三十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百三十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百三十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百三十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百三十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百三十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百三十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百三十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百三十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百三十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百四十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百四十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百四十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百四十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百四十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百四十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百四十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百四十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百四十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百四十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百五十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百五十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百五十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百五十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百五十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百五十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百五十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百五十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百五十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百五十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百六十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百六十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百六十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百六十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百六十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百六十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百六十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百六十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百六十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百六十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百七十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百七十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百七十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百七十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百七十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百七十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百七十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百七十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百七十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百七十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百八十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百八十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百八十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百八十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百八十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百八十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百八十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百八十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百八十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百八十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百九十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百九十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百九十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百九十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百九十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百九十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百九十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)三百九十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)三百九十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)三百九十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百二十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百二十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百二十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百二十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百二十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百二十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百二十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百二十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百二十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百二十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百三十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百三十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百三十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百三十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百三十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百三十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百三十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百三十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百三十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百三十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百四十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百四十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百四十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百四十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百四十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百四十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百四十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百四十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百四十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百四十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百五十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百五十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百五十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百五十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百五十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百五十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百五十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百五十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百五十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百五十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百六十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百六十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百六十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百六十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百六十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百六十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百六十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百六十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百六十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百六十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百七十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百七十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百七十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百七十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百七十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百七十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百七十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百七十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百七十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百七十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百八十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百八十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百八十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百八十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百八十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百八十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百八十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百八十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百八十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百八十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百九十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百九十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百九十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百九十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百九十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百九十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百九十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)四百九十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)四百九十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)四百九十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百二十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百二十一、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百二十二、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百二十三、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百二十四、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百二十五、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百二十六、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百二十七、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百二十八、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百二十九、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百三十、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百三十一、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百三十二、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百三十三、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百三十四、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百三十五、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百三十六、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百三十七、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百三十八、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百三十九、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百四十、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百四十一、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百四十二、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百四十三、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百四十四、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百四十五、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百四十六、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百四十七、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)五百四十八、獨唱(バリトン)(ヴェルディ作曲)五百四十九、獨唱(ソプラノ)(ヴェルディ作曲)五百五十、獨唱(テナー)(ドニゼッティ作曲)

趣味

趣味に浸るべく
銃猟體驗の記

時　九月十五日解禁當日
場所　新荘郡和尚洲附近

「あれはツメクヽ鳥だ」とのことで「解剖して觀つてはどうです」と慫慂する

田村氏は　低く銃をかまえて銃口に注意しつゝ行く、距離を目測らつて狙ひ打ちに一發ブツ放した、銃なほ打ち止めたのは矢張「小ツメク」だつた、その後に打つたのはすべてシギだつたのでこの小ツメクこそは當日のゲーム中唯一羽の異分子となつたのである、田には二種の鴨が一尺五寸ばかりに延びてゐる、朝露を踏みしめながら畦を傳つて歩く音響のソヽ〳〵といふ

隔靴掻痒　の感なきを得ない、茲に於てか自らその儘はひを斷絶すべく銃聲勇に出かけた次第である、時は九月十五日鴨猟解禁の日、場所は新莊郡和尚洲、一行は總督府と鉄道に關係ある同好者の三人である、日頃からは朝露の未だ乾かぬ午前四時頃、集合の場所に指合ひクヽシに向ふ一路和尚洲を目指して驅る

五時十分　鐵道馬車、自動車を捨てゝ舟に乗つて四分ばかりは午前四時頃、集合の場所に指合ひクヽシに向ふ一路和尚洲を目指して驅る

身自らその態なり味はひなりを體驗することなく鴨猟の術に關ばかりを習いてゐたのでは當者としては

鐵砲玉の　はやいにはいはない、今度は佛々あたりが思ひ切つて一羽位は落したいふ考慮で、先づ思い成績にないだらうといふことだつたが僅か一時間と十分の間に獲物來の手だけあつて田村氏は先に立ちながら僅々五分位の間に鴨の群を少しの不安もなくスラスラと踏み越えて行く、鴨も流石に敵の襲撃を感知してゐたらしく、大抵へ飛ぶ時は一羽ならず二羽三羽と連れ立つて飛ぶのだが、此の日は一羽又一羽と離れ離れに飛ぶのだ、之に反して狭い畦道を歩きつけぬお伴の吾々は陸に

肥満した　E君は最も多くの獲物を期待して來たのであつたが、水田の中に足を突込まさるを得ず、加ふるに一羽ならず、數羽の鴨群が一時に飛び立つ數の多いのに驚いて、そこで放かけの銃を取つてゐる間に既に遠く射程外に逃げ去つてゐるといふ有様、E君の如きは全く獲物に縁遠いものと見えて、一羽の獲物をも得ず、遂に二十羽位は落ちたであらうと思はれる鴨群に對して僅かに一發の發射をなしたのみで、殆んど獲物なしといふ有様、E君の如きは全く獲物に縁遠いものと見えて、一羽の獲物をも得ず、遂に二十羽位は落ちたであらうと思はれる鴨群に對して僅かに一發の發射をなしたのみで、殆んど獲物なしといふ有様、

江頭の方　（題らうと思つたが羽合に成績がいゝ樣だから此處で數旨しやうと思つて）

「成績のアイ報告を聽らしたもんだネ」

「頭一ぱいリヤ〳〵だ」江頭の方は明朝また銃氣を奮つてから更めて出掛けるサ」

とさらしげである、E氏の顧には十羽のシギがある、

「エ二時まで此處を動揺すれば三十羽は獲だロ」

と田村氏が力み返ると江頭の成績として聞いたことをない

大きく出　たネ、マア精々取るサ、併し三十羽は不可能だネ」

と感分鄭重して預け銃彈を肩に同ふへ行つて仕舞ふ、E氏に於ては發射といふの發數一番驚けめぐつてゐる間に勞力は殆んどないもの、十一時半には三十羽は遂に船過して二羽を殘すのみ、收めて三十五羽の獲物を得て歸つて來る、斯くて今度は湯所の田圃に出る飛び立つ數を觀察するに此處にも二時に五分前にして三十羽を遂た、お伴のE君未だ少しく氣味惡くなつたのか

二十羽位　は居りさうだ」遂に十二羽に獲物なく引金が引かれる、如何に早い鳥でも

「まだ明日ね」

と慰めて、橋の上で別れて一人トボ〳〵歩いて行く善田の淋しい後ろ姿を見送つてゐた町子には、善田が少し行つて振り向いた樣に思つたから

善田は、手をあげて「また遊ほう」といふ樣をした。

「橋の上の（五）

曙光

（120）

生方敏郎作
中野明修二畫

善田十六羽

鯛木年のシギは非常に早くて困りました、例年なら六十羽位は獲れるといふ

例年なら

曙

（120）

生方敏郎作
中野明修二畫

善田十六羽

鯛木年のシギは非常に早くて困りました、例年なら六十羽位は獲れるといふ

鐵砲玉の　はやいにはいはない、今度は佛々あたりが思ひ切つて一羽位は落したいふ考慮で、先づ思い成績にないだらうといふことだつたが僅か一時間と十分の間に獲物來の手だけあつて田村氏は先に立ちながら僅々五分位の間に鴨の群を少しの不安もなくスラスラと踏み越えて行く、鴨も流石に敵の襲撃を感知してゐたらしく、大抵へ飛ぶ時は一羽ならず二羽三羽と連れ立つて飛ぶのだが、此の日は一羽又一羽と離れ離れに飛ぶのだ、之に反して狭い畦道を歩きつけぬお伴の吾々は陸に

豫定では　此處で十羽を仕止めれば先づ思い成績にないだらうといふことだつたが僅か一時間と十分の間に獲物來の手だけあつて田村氏は先に立ちながら僅々五分位の間に鴨の群を少しの不安もなくスラスラと踏み越えて行く、鴨も流石に敵の襲撃を感知してゐたらしく、大抵へ飛ぶ時は一羽ならず二羽三羽と連れ立つて飛ぶのだが、此の日は一羽又一羽と離れ離れに飛ぶのだ、之に反して狭い畦道を歩きつけぬお伴の吾々は陸に

肥満した　E君は最も多くの獲物を期待して來たのであつたが、水田の中に足を突込まさるを得ず、加ふるに一羽ならず、數羽の鴨群が一時に飛び立つ數の多いのに驚いて、そこで放かけの銃を取つてゐる間に既に遠く射程外に逃げ去つてゐるといふ有様、E君の如きは全く獲物に縁遠いものと見えて、一羽の獲物をも得ず、遂に二十羽位は落ちたであらうと思はれる鴨群に對して僅かに一發の發射をなしたのみで、殆んど獲物なしといふ有様、

江頭の方　（題らうと思つたが羽合に成績がいゝ樣だから此處で數旨しやうと思つて）

「成績のアイ報告を聽らしたもんだネ」

「頭一ぱいリヤ〳〵だ」江頭の方は明朝また銃氣を奮つてから更めて出掛けるサ」

とさらしげである、E氏の顧には十羽のシギがある、

「エ二時まで此處を動揺すれば三十羽は獲だロ」

と田村氏が力み返ると江頭の成績として聞いたことをない

大きく出　たネ、マア精々取るサ、併し三十羽は不可能だネ」

と感分鄭重して預け銃彈を肩に同ふへ行つて仕舞ふ、E氏に於ては發射といふの發數一番驚けめぐつてゐる間に勞力は殆んどないもの、十一時半には三十羽は遂に船過して二羽を殘すのみ、收めて三十五羽の獲物を得て歸つて來る、斯くて今度は湯所の田圃に出る飛び立つ數を觀察するに此處にも二時に五分前にして三十羽を遂た、お伴のE君未だ少しく氣味惡くなつたのか

二十羽位　は居りさうだ」遂に十二羽に獲物なく引金が引かれる、如何に早い鳥でも

「まだ明日ね」

と慰めて、橋の上で別れて一人トボ〳〵歩いて行く善田の淋しい後ろ姿を見送つてゐた町子には、善田が少し行つて振り向いた樣に思つたから

善田は、手をあげて「また遊ほう」といふ樣をした。

「橋の上の（五）

曙光

露國の滿洲國承認
ますく確實性を加ふ
廣田大使の歸朝を待つて
大橋次長東上して打合す

【新京二日發電通】ロシヤの滿洲國承認は一に日本の不可侵條約態度如何にかかつて居り若し日本にして好意を示さば何時にても滿洲國承認の擧に出つべく含みあることは既報の如くであるが、駒井長官は率天して武藤關東軍司令官と會見右に就き進言し日本との諒解成立せば露滿兩國は國際聯盟總會に於ける前に議定書締結の運びとなるべく其の時期は大橋外交次長、ツラウスキー氏との會見で諒解を添付したものと云はれてゐる、尙廣田大使の歸朝を待受けてゐた大橋外交次長は滿洲里事件にて會見出來ず今月四、五日頃飛行機で東上しレンヤの滿洲國承認に關し打合せを爲すことになつた、夫に依り謝介石外交總長は今月中頃渡日するものと見られてゐる

滿洲里國境警備隊
五十名は惨死、他は武裝解除
邦人は全部無事と判明

【ウチハル一日發電通】三十日午後九時當地に着いた電報にロシア側愛琿の情報に依ると滿洲國國境警備隊二十七日露の襲撃を受け應戰したるも及ばず五十名は惨死、他は全部武裝解除された、尙邦人は全部無事である

滿洲國の警備隊
山海關で支那側と衝突

【天津二日發聯合】今朝山海關の滿洲國警備隊は何柱國指揮の支那側警備隊と衝突し滿洲國警備隊は重傷一名を出し目下兩軍對峙中

昂々溪に匪賊襲來
我軍殲滅を期し追擊中

【齋々哈爾一日發聯合】今朝昂々溪の兵匪一千昂々溪に襲來我松山支隊これと會戰激戰後これを擊退した、尙これを徹底的に殲滅すべく且つ追擊中砲聲殷々當地に聞ゆ

綏中の我軍
猛擊を開始す

【奉天二日發聯合】錦州西方一帶に盤踞する匪賊は張作良よりの招撫勸告に應じ我綏中部隊は着々に出動之れと連絡これに多大の期待を與へて居る折柄、去る二十九日夜半我軍は綏中西方一帶に盤踞する匪賊に對し猛擊を加へたが匪賊は張作良よりの招撫勸告に應じ我綏中部隊は着々に出動之れと連絡これに多大

【チチハル一日發電通】一月午前

嘉義競馬場で
觀覽飛行
宮森孃は不出演

【嘉義特電】二日嘉義競馬場に於ける航空協會及會の關係飛行は午前十一時より開催され觀衆上の申込み殺到し觀覽席投下狀況華やかれも觀衆の喝采を博しパラシューター宮森孃は飛機の故障のため出演を中止し代つて藤井飛行士が代つて空中より投下した

第二回戰でも
法大快勝す
六A對零の成績で

六大學野球法政二回戰は二日午後一時三分神宮球場で帝大先發に服部、藤原、六A先發で法大の所勝に歸した

法 040020004A
帝 0000000000

一死した帝大は猛打を振つて中堅を守り、田中を右翼に配する攻守の陣形である、先勝の法政ハ朝日のウヰニング・ピッチヤー森本ソデに退いてこの日は新進服部に投球を委ねんとする劍の登場である、前打撃の殊勝者田子武田の打順が五六に引下げられたのが眼につく、開來素晴らしく低く四角を奪ふ速球に適時カーブを混用して帝大を二安打、無得點に退けたに反し帝大當時投手の投球は總の如くならず二回には先ず田子へ放たれ、二回には久保田子へ四球に出で二塁

漢文臺灣日日新報　昭和七年十月十三日　第一萬一千六百六十九號　（第三種郵便物認可）

張學良中毒重態

不知被誰所害

二日午前七時五十分東京至急報。據北平情報。張學良於一日。不知中誰之毒。陷於重態。

御下賜金實行施療

自二日無料診察

在仁濟院診療所

此次皇上對木局醫療救護費。實施之擴。文教局長及州知事。午前中臨場觀察。自昭和七年度起三年間。每年御下賜金一萬四千圓。而督府爲奉副至仁至慈之聖旨。亦自同年度每年出國庫支出相御下賜金同額之一萬四千圓。使各州廳擴張施療事業。經定自十月一日實施。而臺北州及花蓮港廳下一帶之施療。以臺北仁濟院當之。二日雖適日曜。午前九時。特于臺北市觀山寺町同院診察所。

十九國繼續委員會

審議中國代表所提出

總會召集要請

一日羅府電。十九國繼續委員會。欲審議中國代表顏惠慶氏提出於總會議長集十九國繼續委員會議長伊斐斯氏之總會召集要請。一日午前十時四十五分。伊斐斯議長召集開會。議長先讀中國代表提出左記討議要求三項。

一、七月一日特別總會。法定之六月報告期限。惟日支問題。特爲必要之期間延長。事經決定。今者恐審議遲延。此點特希考慮。

二、日本利川此遲延。俾事態更惡化。故望聯盟。更爲適當措置。

議長開議既終。衛藏牙。捷克等代表。各求發言。娩斥中國代表希望。於是議長調理事會侯執敦期報告審議終了。乃另召集十九國委員會。以審議總會報告延長期間決定之事。諸君意思如何。全員無異議贊成。議長乃宣言二項討議。希望日本關於妨害解決之行動宣稱。報告期延長期間。不論何國。切勿利用於事態惡化。次捷克代表。同意議長所論。瑞典瑞西各代表供同意。議長謂本問題之討議。以此而終。會議中委員會意向。欲實當事國參考。乃將詳細議事錄。

初回內地米

收穫豫想

六千百餘萬石

一日東京電。農林省發表昭和七年度內地米收穫豫想額。合計六千百五十五萬九千二百九十石。比前年實收。增六百二十四萬四千二十七石（一成一分五厘）。

花蓮分屯大隊

舉忠魂碑除幕式

及創立十五周年記念祭

花蓮港分屯大隊。竟在營日開熱不絕云。

南市短期融資

指定五信組

爲貸出機關

既報臺南市短期小額資金融通補償案。其他準備告員會。去一日召集興信。臨時總會。決定指定爲貸出機關之五信組。左記。

臺南。友信會。興產信組。

五信組代表者。于市役所。由森市助。正式指定爲貸付機關。又借金申入者。已超過二十萬圓限度。對此按數日中。查定完了。即行貸出云。

潮郡聯合青團

舉結團式

參加八百餘名

潮州郡聯合青年團結團式。去一日午前十時。假潮州公學校々庭舉式。參加團體。有十一團。團員八百七十餘名。宇刻。赤嶺副團長述開會辭。齊唱國歌。後揭揚國旗。向宮城及伊勢皇太神宮遙拜。團長宮永郡守。訓令旨。團員唱寒答歌。下午幹部。報告經過。團長訓示。十一團長宣誓。和事代理金子教育課長訓辭。來賓屏東郡守代理。潮州郵便局長。

屏東蕃害

搜查無踪

吉田警視歸北

屏東郡下。蕃害事件。自九月二十一日赴現地之督府吉田警視。陳田總部。經于三十日歸屏。翌一日午前八時。將情報告友部警務局長。據其情報。高雄廳當局。極力搜查。然因至昨年四月間山越道路開通。殆屬來歸順情態。其緊張之度。比北部約緩十年。爲是不能信相審人搜查。即行搜查。亦只爲塞責之報告。警察官雖行搜查。而附近爲一萬尺以上之高山地帶。蕃社散住于五里十里。搜查甚難。殊行兇番人遺留品足跡等。無一科學的搜查材料。且因連日霖雨。不得已而就總督事件。火藥事件關係者。則詳調查。而此亦無何等歸著。故于搜查。全入迷宮云。

埔里公質

一日起開辦

埔里街役場。爲謀設公設質舖。對當局申請資金融通。業已得融通二萬三千圓。去一日午前十一時。舉開業及事務所落成式。州有社會主事石川貞澄及澤井郡守等列席云。

斗六街庄協

任命發表

斗六郡下各街庄協議會員。埔里街役場。

電力作業夫

感電殉職

電力作業。梁宮傳榮。年三十一。桃園八塊庄人。去三十日午後五時四十分。與同伴在near港街牛墟四州產業道路上。修理電線。相交感電。倉皇無措。急欲逃走。不數步。起心臟痲痺。昏倒在地。及醫師驗屍。救已莫及。乃由near港散宿所葬之。

無鑑札妓女

罰拘五天

亭主處以科料

新營郡新營庄精平廣胜樓營業人劉關瓜。內置無鑑札之妓女三名。爲客伯酒及觀枕。被去二十九日同地區巡查部長檢舉。罰科料金五圓。又鄭氏金治（阿幼）年十六。劉卉月桂年十七。劉氏玉鳳。年十六等三人。同日即決罰拘五日間。又游春閣。楊化氏幼。年十五。因無鑑札亦罰拘五天。閻主則被罰科料金二圓云。

用柴刀自背後

劈傷招婿

大甲郡大甲街社尾人何水去三十日午前九時。手執柴刀一個。向其招婿鄭天賜之後背。砍去。使負長三寸深五六分重傷。鮮血淋漓。幸面天鳴身體強壯。於對別路。逃往林漢醫院治療。案情現在大甲分室究辦中。殺傷原因。聞天鵬自三月。入贅何家。夫婦相得。本約招入。後來乃入場某之家。使召婆婆與何水。要求資出。何水不肯。婆婆一怒之下。時藥即密報其事交力坪派出所。小松巡查立到現場。將來逮捕入郡警察課究中云。

太平公記念祝

既報臺北市太平公學校。創立三十五周年紀念式。一日午後二時十分。盛大舉行。同三時半開式。謁于同校內。山家庭會主開祝賀會。出席者。督府赤堀學務課長。大浦視學官。州福之內務部長及州市教育課長視學。中等學校長竝關係官民約二百名。酒數巡。會長許智其氏致祝詞。次赤羽同校長。來賓祝詞。次赤羽同校長。來賓祝詞。三唱天皇陛下萬歲。石川樽山小學校長。高唱大平公學校萬歲。一同和之。也是主賓交杯。三四一。餘散會。

溪北及傷案

主謀者已明

既報二十九日午前一時頃東石郡六腳庄轄內人陳振隆。年三十二。在嘉義郡新巷庄溪北路上。被三名傷害事件。其後嘉義郡警察課。檢舉被疑者數名。訊問結果。始知主謀者爲學務課長。大浦視學官。大有新展云。

公學運動

費原男子公學校。去十月一日

午前八時起。在校庭。舉行全校生徒競技會。生徒總數約千五百名。是日運動種目百餘種。由星校長以下。教師二十餘名。熱心指導。行各種競技。又是日正校高氣爽。父兄亦多數莅觀。稱盛極況。

東石

決意移住

東石郡六腳庄下。双溪之住民。著著移住來寄。爰定決意移住計于何。現由社子街役場。計畫進行。爲之交涉數回。及一切借金云。

選代議員

東石郡下嘉南大圳區域內之代議員補選。去三十日。在庄下七街庄。舉行代議員選舉。開票後中選者如左。社子街黃郎興。黃振隆。東石庄許順泰。翁後。有投庄。蔡乃誠。罷票竹庄翁添五。翁太閑。鹿滿庄李泉確格。太保庄王岡村。王謂禮。六腳庄黃福清陳港云。

豐原

任街庄協

碧原郡下五街庄協議會員。於去十月一日舉表。由各街庄長交付辦令。氏名節略。開此間大有新展云。

自動車不慎

撞傷五歲兒

豐雄市共榮自動車會社運轉手麥石成。年三十二。一日午前十一時二十分。運轉豐第四一七號乘合自動車。自山下町向川町逸駛。至山下町。至山町野球會社方面。一丁目街路上。撞倒在附近正無心遊玩之幼兒。該幼兒。後制明爲同町一丁目人魚住俊夫之長男魚住昭。年五。幸僅負輕微之擦過傷也。

罹惡性皮膚病

死豚舍中

仙殺嫌疑濃厚

高雄州恒春郡車城庄三百四番地莊氏玉桂。年二十一。素罹惡性皮膚病。及胃腸病。家人因其久病。厭費太盡。幸將其人放置在附近豚舍。去二十八日發見病人死於該豚舍內。嗣經郡屬經課。取調結果。竟嚴告檢舉之疑疑。竟金濃厚。更嚴告檢舉之疑疑。竟金濃厚。一日。臺南地方法院檢察局係官。及泰田高雄醫院外科醫長。赴現場將屍檢解剖。其他殺害之。頓已一年。際會消時無個事。聞情弱半託吟遊。之日。在別蕭洲國。承認之日。在別麻旗舍觀月。

假符法師行騙

轉手麥石成。年三十二。

一日午前十一時二十分。運轉豐第四一七號乘合自動車。自山下町向川町逸駛。至去九月三十日。在中央噴水。被嘉義署只野。郎兩刑事拘去取調中云。

翰墨因緣

▲臺化縣文社第百八十一期課題。並附鳳衛潛隱吟社第五十期課題。擬定如左。

文題　鷹

詩題　微雨鷹揚

▲臺南縣北門人楊澤蕃氏。此回內海內外徵詩。方法如左。

一、詩題　徐福一

一、體裁　七律。不拘韻。

一、詞宗　吳興劉　幹信氏。北京華一山氏。

一、交卷　新竹市北門三三番地　吳振南會調中。

一、期日限至昭和七年十月末日爲止。

一、交卷同前。

一、贈品五角內外相當者。

▲臺社第五回課題如非公表。

一、官題　鐵干陵七律寒韵。

二、次題　珊瑚（海中珊瑚樹）七絕尤韵。

三、交卷　與東石郡朴子街朴子通信運行隔膳擬定。

四、期限十月二十五日截收。

五、被東朴子街黃振卿吟社。

▲臺南市西門町陳潤南部無盡會社。自票由氏銳意整頓以來。社礎堅固。積資甚多。已成爲臺南重要金融機關。近因已屆職之前主事中尾某。於在職中。恒向該社之講會。會員假款。以積日久故。爲數頗巨。雖屬經社之社部戒防。終難自新。遂於去月前被調職。因之該主證門。無以應付。事聞警察當局。疑其有不正之行爲。於客月二十九日。將其召訊。爲是生出種々風傳。就中雖有擅用人印。告貸四百金事。警當局方在嚴重質訊中。罪之成立與否。尚未能知。況對該會員假款一事。亦屬個人問題。百與該社無關係。

▲臺南縣北門郡佳里庄下。佳里街役場。

一、詩題　「風虎」二韻體。七絕。

一、詞宗　吳興劉　幹信氏。北京華一山氏。

一、交卷　新竹市北門三三番地　吳振南會調中。

一、期日限至昭和七年十月末日爲止。

一、贈品　十名內均有潤筆由新竹吳宣景氏寄贈。

詩鐘「鑒湖」竹園格二字七言。

一、詞宗　石蘭石蘭文園氏。

一、期限昭和七年十月末日爲止。

一、交卷同前。

一、贈品五名內外相當者。

▲嘉社第五回課題如非公表。

一、官題　珊瑚（海中珊瑚樹）七絕尤韵。

二、次題　鐵干陵七律寒韵。

三、交卷　與東石郡朴子街朴子通信運行隔膳擬定。

四、期限十月二十五日截收。

五、被東朴子街黃振卿吟社。

▲臺南縣北市高山文社。日前在倪炳煌氏宅召集。三社聯合開吟鉢吟。題取「詩圃正」七絕五韻。六時交卷。錄甘頭取合點。鹽物山倪炳煌氏選取合點。鹽唱後元慈倪炳煌氏所贈。對入選者。全部由倪炳煌氏贈品。兩案以續。席上更聯吟相樂句。以作記念。九時半結選。

▲嘉義市社明錄詩如左。

臺南市東門

粟市減售

臺南市東門町小粟市場。自九月來。附近村落粟販運粟入市求售者。踵成絕跡。反不如直接逸到米商處。仍爲便利。故一日起。粟市減售。每斗十錢。

臺南市防疫

檢查現場工事

臺南衛生當局。檢設之糞尿運搬車。自本年四月興工以來。至近業已告竣。去三十日。由佐伯警部。松浦書記。越市吉瀨衛生課長。前往現場檢查其工事。工事係防止現場小學校前至法院之下水。與第二中學沿商城。築半砂工事。及實公學校南側水溝整備等。

白河庄長未定

傳某助役就任

新營郡下六街庄長中。新營。白河。番社等三庄長任期滿了。對於更新番社庄長廢按。蔡氏之重任。別無問題。而白河庄。有野心家出爲運動。其中排斥庄長之運動猛烈。去一日發表新任。新營庄長平川一彥氏。乃前新營郡廳庶務課長。伺退官者。庄中互相排斥之結果。大抵如是。又白河庄長未定。風說五十里新營庄助役就任。亦未可知云。

溪北及傷案

主謀者已明

既報二十九日午前一時頃東石郡六腳庄轄內人陳振隆。年三十二。在嘉義郡新巷庄溪北路上。被三名傷害事件。其後嘉義郡警察課。檢舉被疑者數名。訊問結果。始知主謀者爲學務課長。大浦視學官。大有新展云。

公學運動

費原男子公學校。去十月一日

午前八時起。在校庭。舉行全校生徒競技會。生徒總數約千五百名。是日運動種目百餘種。由星校長以下。教師二十餘名。熱心指導。行各種競技。又是日正校高氣爽。父兄亦多數莅觀。稱盛極況。

東石

決意移住

東石郡六腳庄下。双溪之住民。著著移住來寄。爰定決意移住計于何。現由社子街役場。計畫進行。爲之交涉數回。及一切借金云。

選代議員

東石郡下嘉南大圳區域內之代議員補選。去三十日。在庄下七街庄。舉行代議員選舉。開票後中選者如左。社子街黃郎興。黃振隆。東石庄許順泰。翁後。有投庄。蔡乃誠。罷票竹庄翁添五。翁太閑。鹿滿庄李泉確格。太保庄王岡村。王謂禮。六腳庄黃福清陳港云。

豐原

任街庄協

碧原郡下五街庄協議會員。於去十月一日舉表。由各街庄長交付辦令。氏名節略。開此間大有新展云。

街協發表

東石街協。一日發表。郭東石街協。一日發表。郭社方。黃振隆。黃振隆。黃振隆

（第三種郵便物認可）　昭和七年十月三日　臺灣日日新報（附錄）　（二）

リットン報告書の要項

満洲を特別行政區とし

日支間に諮問會議を

兩國の紛爭は兩國民の不幸のため

勸告趣旨の全貌漸く明か

支那今日の混亂は排外政策に基く

日本の損害は何國よりも痛切

緒論

第一章　支那

第二章　滿洲

第三章　日支兩國間の滿洲に於ける諸問題

第四章　昨年九月十八日以後に於ける事變概要

第五章　滿洲國の獨立は自發的にあらず

第六章　滿洲國家建設過程

第七章　日本の經濟的利益と支那の排貨

第八章　滿洲に於ける經濟上の利益

第九章　解決の主義及び條件

結論で描かれたユートピア滿洲

治安は憲兵に軍隊は撤退

第十章　考察及び理事會に對する提案

滿洲問題解決のため現狀及び日本政府に勸告を提出するは本委員會の任務にあらず本委員會は紛爭原因の終局的解決を容易ならしむるため紛爭國に對し爲さるべき確定的提案を聯盟の適當なる機關が起草することに資すべき諸提議を提出せんとするものなり之等の提議は第九章に擧げられたる諸解決を滿すべき方法の一として示さるるものなり而して之等の提議は主として現狀のものにしてなく細目に亙る點も少からざるが聯盟國にしてこの主旨にて此に提議する諸解決を確保せんとする目的を以て承認の發表の知何を問はず且下滿展しつつある事態に對し本報告中の諸提議を如何に實施適用すべきかを決定するは世界平和に對する理事會の任務なるべし

先づ第一、當事國は帝國政府に對し聯盟の大綱に依る解決を勸告すべき旨を勸告す日支兩國が右勸通を容るる時は先づ以て東三省に特別行政機構を設定せんがため具體案を審議すべき諸問會議を召集すべきなり右會議は日支兩國代表者に滿洲在住代表二名（內一名は支那政府が定める方法に依り他の一名は日本政府が定める方法に依り選定せらるる）を以て構成すべし、聯盟理事國の同意あらば中立國オブザーバーの派遣を受くる事を得べし右會議に於て審議に資し得ると認らるる諸般の事項を研究し且つ滿洲に於ける聯盟の代表者の知何を問はず且下滿展しつつある事態に對し本報告中の諸提議を如何に實施適用すべきかを決定するは世界平和に對する理事會の任務なるべし

先づ第一、當事國は帝國政府に對し聯盟の大綱に依る解決を勸告すべき旨を勸告す日支兩國が右勸通を容るる時は先づ以て東三省に特別行政機構を設定せんがため具體案を審議すべき諸問會議を召集すべきなり右會議は日支兩國代表者に滿洲在住代表二名（內一名は支那政府が定める方法に依り他の一名は日本政府が定める方法に依り選定せらるる）を以て構成すべし、聯盟理事國の同意あらば中立國オブザーバーの派遣を受くる事を得べし右會議に於て審議に資し得ると認らるる諸般の事項を研究し且つ滿洲に於ける聯盟の代表者の援助を受くる事を得べし

一、諮問會議の決議に基き東三省に對し適當なる勸告を與ふること

二、日本の利益に關する日支條約

三、關係條約の改訂

四、日支通商條約

諮問會議の組織

諮問會議は行政組織の大綱に關する事項の審議に參與すべき行政機關の代表者及滿洲在住の各種重要利益の代表者を以て組織せらるべし

諮問會議の議長は國聯理事會の同意を得て當該國に與へ置かるる國聯代表者之に當るべし

諮問會議の會合は東三省に於て開催せらるべし

諮問會議の會合の場所、代表の選出及び中立國オブザーバーを招聘せらるべき場所は國聯理事會より提出すべき人名中より國聯理事會之を決定すべし

諮問會議の任務

諮問會議は東三省に於ける左記事項に關し諮問に應ずるの任務を有すべし

一、東三省の行政機構

二、東三省の財政

三、關係條約の改訂

四、日支通商條約

諮問會議は東三省の行政機構の改革に關する事項の審議に參與すべき行政機關の代表者及滿洲在住の各種重要利益の代表者を以て組織せらるべし

諮問會議の議長は國聯理事會の同意を得て當該國に與へ置かるる國聯代表者之に當るべし

諮問會議の會合は東三省に於て開催せらるべし

諮問會議の會合の場所、代表の選出及び中立國オブザーバーを招聘せらるべき場所は國聯理事會より提出すべき人名中より國聯理事會之を決定すべし

諮問會議の會合の場所、代表の選出及び中立國オブザーバーを招聘せらるべき場所は國聯理事會より提出すべき人名中より國聯理事會之を決定すべし

諮問會議の任務

諮問會議は東三省に於ける左記事項に關し諮問に應ずるの任務を有すべし

一、東三省の行政機構

二、東三省の財政

三、關係條約の改訂

四、日支通商條約

諮問會議は東三省の行政機構の改革に關する事項の審議に參與すべき行政機關の代表者及滿洲在住の各種重要利益の代表者を以て組織せらるべし

諮問會議の議長は國聯理事會の同意を得て當該國に與へ置かるる國聯代表者之に當るべし

諮問會議の會合は東三省に於て開催せらる